

六年生27名との出会い

始業式が終わった後、六年生だけ体育館に残しました。
そして、体育館が静かになるのを待ち、話しました。

「先生には、皆さんが一年後、この会場で卒業していく様子をはっきりと目に浮かびます。在校生からどのような声をかけられ、どのような表情で送られるかということが、わかるのです。皆さん、卒業まで、いろいろなことがあると思います。辛く苦しいことも乗り越えなくてはならないでしょう。でも、楽しいことも大切に、喜びが多い一年にしていきたいと思います。」
このように話しながら、私は胸が熱くなりました。目頭も熱くなりました。「今は卒業式ではない。始業式だ。」と自分に言い聞かせながらも、目は潤みました。子どもたちも、真剣に私を見つめていてくれます。

「これから、教室に戻ります。途中、おしゃべりをせずに教室に戻ってください。」

子どもたちは、おしゃべりをせずに教室に戻りました。
教室に戻ると、「気をつけ」を何度かさせました。

「この一年間、みなさんは授業の前後で気をつけを何千回もします。でも、意識せず、何となくしていると自分を磨くものにはなりません。意識することで、「気をつけ」でさえ、自分を鍛えてくれるものになります。」

このあと、漢詩を読ませました。

「春眠、暁を覚えず」

これだけを何回も練習しました。だんだんと声が響いていくことがわかります。いい声になっていきます。

静かに教室移動することも、「気をつけ」をキチンとすることも、声を出すことも、日々の小さなことです。

しかし、それを何百回、何千回と意識してすると自分を鍛え、磨くことになるのでしょうか。子どもたちとともに、日常の小さな事を大切に、そこに意味を見いだしながら、一年間、過ごしたいと思います。